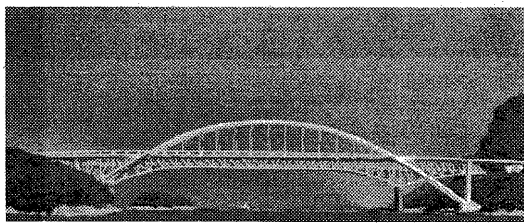


# アーチ式を採用

## 熊本県 年明け詳細設計着手



完成予想

熊本県は、国道266号大矢野バイパスに建設する新天門橋（仮称）の橋梁形式に鋼PC複合アーチ式を採用することを決めた。大日本コンサルタントが担当している予備設計を2007年内に完了させ、年明けに詳細設計に着手する。09年度以降に着工し、15年度の完成を目指す。

同バイパスは熊本天草幹線道路のうち、上天草

市大矢野町から宇城市三角の長さ3.5キロ、幅10.5メートルで、暫定2車線の地域高規格道路となる。新天門橋については、構造・施工技术、橋梁の意匠な

どの設計・検討を円滑に進めるため、新天門橋技術検討委員会（委員長・大塚久哲九州大学院教授、7人で編成）を設置している。

橋梁形式は、トラス橋、エクストラードード橋、アーチ橋の3案を比較検討し、コストや強度面などで優れているアーチ橋に決めた。長さは約465メートルで、支柱間（アーチスパン）の長さは約348

メートルを予定している。また、海面から橋桁までの高さは約42メートル、アーチ最上部までは約70メートルとなる。

詳細設計は、08年度末までを予定しており、主要構造部材や細部構造を決定し、施工計画などをまとめる。また、県は、07年度から取り付け部などの用地買収に着手する。着工は、用地買収の進捗や財政状況などによって流動的な見通しだ。